

学校だより 「花里の子」

令和8年度 第11号（令和8年9月11日）

伊丹市立花里小学校長 小木曾 笑子



健康教育参観&講演会を実施しました 全校で「命の大切さ」について学びました

2学期最初の参観日は、健康教育をテーマにした授業を見ていただきました。取り上げた題材は、学年の発達段階に応じて様々ですが、どの授業も「命の大切さを考える」ことをめあてにおいて組み立てました。



1年
たいせつなからだ



2年
ぼく・わたしは
どこからきたの



3年
けんこうに
よいかんきょう



4年
体の成長とわたし



5年
いろんな気持ち



6年
いのちと性について
考えよう

6年生は、公益社団法人小さないのちのドアから助産師さんを講師にお招きして出前授業を行いました。受精から誕生まで、胎児の様子について、ベストパートナーについて、パーソナルスペースやプライベートゾーンのこと・・・様々な視点から「性といのち」について教えていただきました。子どもたちにとっては、興味はあるけれど、身近な大人には聞きにくいことにも触れていただきました。6年生の子どもたちの感想の一部を紹介します。

一つ一つの命は、たくさんの苦勞があって生まれてきているので、家族にも感謝したいと思いました。

授業を受けて、下ネタはあんまり使わないでおこうと思いました。

今日のお話のとおり、大事に育てられるようになってから、赤ちゃんを産みたいと思いました。

ベストパートナーを見つけるのは大事だと思いました。「愛」の心を育てていくのが、異性だけでなく、家族や友だちにも良い影響を与えてくれると思うので、マイナスの言葉をやめて、できるだけプラスの言葉を使うようにしたいです。

今日の授業を受けて、母にありがとうを伝えようと思いました。

家に帰ってから、お母さんと妊娠などについて話しました。お母さんとの話からもたくさんのことを知りました。

授業を受けて、ママが頑張ってくれたこと、自分を大事にしないといけないと分かり、これからは、もう少し自分を大事にしようと思いました。

参観後は、保護者のみなさんと本校職員と一緒に講演会に参加しました。「小さないのちのドア」の取組や子どもたちを取り巻く「性」に関する状況をお話いただき、身近な大人として、どう対応すれば良いのかアドバイスをいただきました。参加された保護者のみなさんの感想の一部を紹介します。アンケートへのご回答ありがとうございました。



A Iと子どもの関わり方や尊敬される大人でいることが後々にわが子を守ることに繋がること、パートナーから愛されるということがどういうことなのかとてもよく分かりました。

命に向き合っておられる先生の声、大変説得力があり、子育て折返し、次のステップだと勉強させていただきました。自分が子どもの時に聞きたかったです。

”妊娠、出産経験があるからこそ、リアルな話を想像しながら聴くことができました。

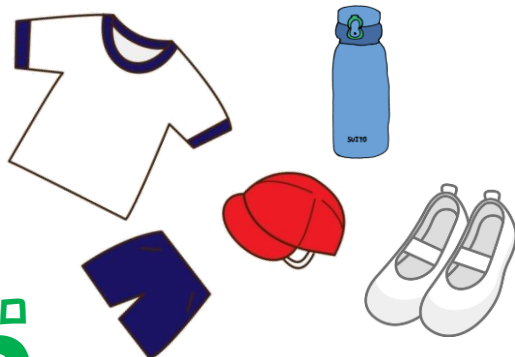
中学生、高校生にこそ、今日の講演を聴いて欲しいと思いました。

夏休み作品展

花里ホールに夏休みの力作が大集合

9月2日（水）～4日（金）に夏休み作品展を開催しました。全校児童が鑑賞する時間を取ると共に保護者の皆様にも見ていただきました。

子どもたちの作品はどれも温かで、夏休みに家族と一緒に過ごした時間が感じられました。思い出作り、アイデア提供、作成する上でのアドバイス等、ご協力、ありがとうございました。



めざせ!!体操服忘れ0

体操服忘れが多いのが気になっています。うっかり忘れたと言う子もありますが、体操服忘れが常習化している子がいるのも確かです。

安全面や衛生面から、体育の授業は体操服で参加することになっています。9月も後半になれば、運動会の練習が始まります。保護者の皆様には、体操服の洗濯にご協力いただくこととなりますが、洗濯が間に合わない場合は、ボタンやファスナーのない服（Tシャツとトレパン等）で代用してください。

体操服は、専科バックに入れて、学校に置きっぱなしというわけにはいきません。子どもたちが自分で準備できれば良いのですが、学年を問わず、なかなか難しいようです。申し訳ございませんが、少しお手伝いをお願いしたいです。家を出るときに、体操服を持つように声を掛けていただきますよう、お願いします。